

# かしそく新聞

～訪問診療 編～

かつしか心身総合クリニック

## 「かかりつけ医」として在宅療養をサポート致します。



### 駒形理事長回想紀行 「人間回復の橋」を知っていますか?③

彼らの社会復帰を阻んできたものは、1つは病気による後遺症(神経麻痺や容姿上の変形)。次にらい予防法による強制隔離。さらに偏見や差別を恐れて、本人自ら家族との関係を断ってしまったりして、帰るべき家庭や社会を失ってしまったことが大きく影響していると想像されます。▽原田先生の講義の要約です(※内容は昭和53年当時のこと)。『現在、我が国でのハンセン病の発生は年間数名を数えるのみである。天然痘のようにハンセン病は日本から消滅する日は近いかもしれない。ハンセン病の治療を担当する医者は私一人で終わりにしてほしい。日本で仕事が無くなっても、世界にはまだまだハンセン病で苦しんでいる人たちが数百万人以上おり、そういう人たちのために私は頑張るつもりである。』▽教養課程の1年目が終わったばかりなので医学的なことは何もわからない状態でしたが、原田先生のお話とその当時の愛生園の情景は今でも心に深く残っています。▽講義のあとで、興奮冷めやらぬなか、宿泊施設への移動途中意外な光景に出会いました。ほんの30数メートル近くに本土が見え、対岸から船が近づいてくる。案内の人に尋ねると、船に乗っているのは療養所で働きながら本土の看護学校に通っている学生さんたちであるという。「こんなに近いのなら、なぜ橋を架けないのか」と思ったとき、原田先生の言葉を思い起こしたのでした…。 (次号『かしそく新聞』第6号「駒形理事長回想紀行」に続く)

◎医師、看護師が定期的に訪問し、また、各種サービスとの連携を図り、みなさまの住みなれた地域での生活をサポートいたします。

まずは、お電話でご相談ください!

### 編集後記～スタッフのつばやき～

駒形理事長の連載同様、誰しも「忘れられない記憶」があります。学生時代、とある児童養護施設で実習をしました。古びた建物、畳は朽ち果て、害虫が室内を這いずり回っていました。そこで初めて(ゴムのおもちゃではない)本物の大百足を見て衝撃を受けたものです。「将来のある子どもたちなのに、あまりにもひどい…」というのが率直な気持ちでした。いまは改修されたようですが、国の予算をもう少し上手に、必要なところに回してほしいものです。(K)

医療財団法人ファミリーユ

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町 1-41-1 桜井ビル 2階

①外来：心療内科＝大川院長、永井副院長

内科＝駒形清則医師

②訪問診療

内科＝駒形清則医師、成相医師

駒形明紀医師(非常勤)

精神科＝米谷医師(非常勤)

神経内科＝今井医師(非常勤)、西岡医師(非常勤)

※詳しくはホームページをご覧ください、お電話にてお問い合わせ下さい。

TEL03-3627-0233